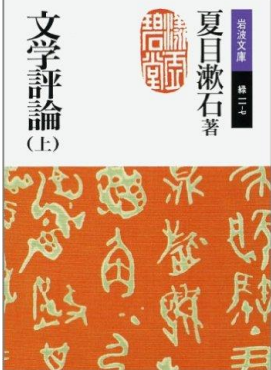
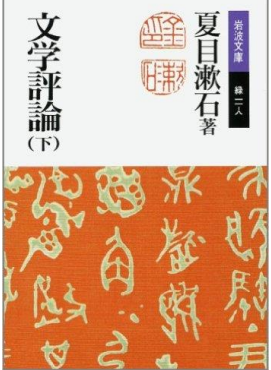

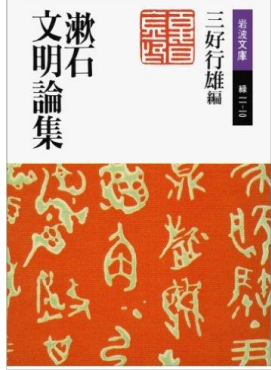
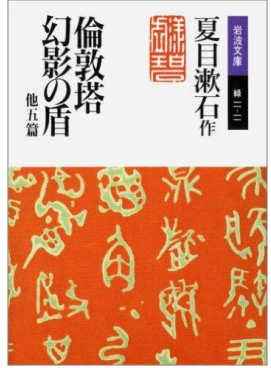
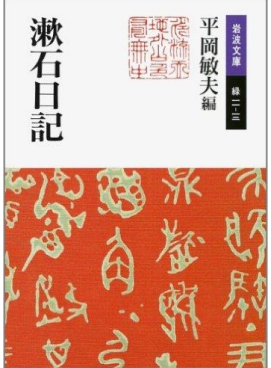
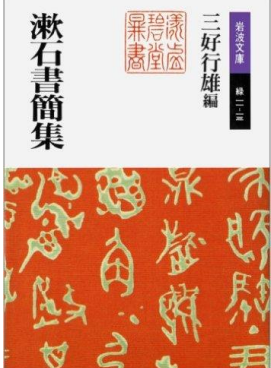
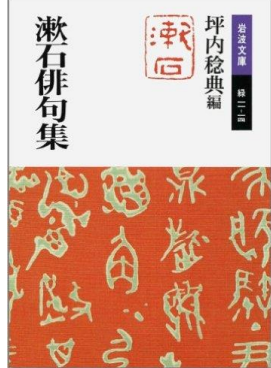


新しい年が始まり、早や1か月が過ぎました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。
夏目漱石の作品を中心に、今回も引き続き安倍総理夫人（安倍昭恵さん）より寄贈いただいた書籍の登録が、進められております。日本文化を紹介する書籍も、お勧めです。2月のお休みの読書に、ぜひ CDI をご利用ください！

			
<p>文学評論（上） 夏目 漱石 英文学者である漱石が「18世紀英文学」のテーマで行った講義。日本人としての漱石が、18世紀イギリスの作家と作品、そしてその社会に切り込んでいく。</p>	<p>文学評論（下） 夏目 漱石 スウィフト、ポープ、デフォーについて。特にスウィフト文学の風刺の特質を「ガリヴァー旅行記」の分析を通じて論じたくだりは圧巻。</p>	<p>夢十夜 他二篇 夏目 漱石 荒涼たる孤独に生きた漱石の最暗部が濃密に形象化された短編。小品とはいえその存在は大きい。</p>	<p>漱石文明論集 三好 行雄 圧倒的に優位な西洋文明を相手に生きた漱石の苦闘の跡を示す「現代日本の開花」「私の個人主義」などの講演記録を中心に、日記・断片・書簡を抄録。</p>
			
<p>倫敦塔 幻影の盾 他五篇 夏目 漱石 留学体験に取材した『倫敦塔』、日露戦争にまつわる怪談『趣味の遺伝』、アーサー王時代の物語『幻影の盾』など七つの短篇。ユーモアや風刺の裏側に潜む漱石の「低音部」である。</p>	<p>漱石日記 平岡 敏夫 全集版で八百ページを越す漱石の日記、メモの中からイギリス留学の日記、修善寺大患時の日記、明治の終焉時の日記など、漱石の生涯の節目となった時期の日記七篇を収録。人間漱石の声が聞こえる。</p>	<p>漱石書簡集 三好 行雄 友人の正岡子規、妻の鏡子、弟子の寺田寅彦・小宮豊隆などに宛てた156通。漱石の心の動きやぬくもりが伝わってくるような手紙は、彼を知るための基本資料であるばかりか、それ自身が作品。</p>	<p>漱石俳句集 坪内 稔典 漱石は親友子規の感化で生涯に約2600句の俳句を残した。明治28～32年はとりわけ熱心に作句に励んだ時期で、子規はこの頃の漱石の俳句を評して意匠が斬新で句法もまた自在だと言っている。848句を選。</p>

			
<p>漱石・子規往復書簡集 和田 茂樹</p> <p>漱石と子規は、高等中学校の同級生として出会い、寄席の趣味をとおして親しくなり、その友情は子規が35歳で亡くなるまで終生変わることなく続いた。その間に交わされた手紙を年代順に収録。</p>	<p>文学論（上） 夏目 漱石</p> <p>1903年苦しいロンドン留学から帰国した漱石が帝大で行った講義録。後の文豪が、西洋と日本をつなぐ。一見難解な外観、龐大な引用、苦渋とユーモアの口調にみぎる文学修行の精華。</p>	<p>文学論（下） 夏目 漱石</p> <p>前半は、公式F+fを使った文学講義（Fは認識の焦点や事実、fは情緒）。後半は表現の関係や聯想（連想）・語法を探り、豊富な実例で文学の面白味を解明。世界文学を読む視点から書く方法へと導く。</p>	<p>坑夫 夏目 漱石</p> <p>家出青年が坑夫になる決心をし、奇妙な道中の末、銅山へ。荒くれ坑夫たちに飯場で嚇されながらも、地獄の坑内深く降りて行く―漱石の真の問題作。</p>
			
<p>象の消滅 村上 春樹</p> <p>ニューヨークが選んだ村上春樹の初期短篇17篇。海外で編集・発売された初期短篇集のいわば逆輸入版。日本版オリジナルの書下ろしエッセイを収録。ファン必読。</p>	<p>ラン 森 絵都</p> <p>もらった自転車に導かれ異世界に紛れ込んだ環。そこには亡くなったはずの家族がいた―哀しみを乗り越え懸命に生きる姿を丁寧に描いた、感涙の青春ストーリー。直木賞受賞第一作。</p>	<p>歌舞伎 河竹 登志夫</p> <p>歌舞伎は日本のバロックである、というグローバルな視角をひらいた著者の好評の入門書から12年、新しい歌舞伎座に向け新たに綴った最新版。60年におよぶ研究と現場体験が、豊富な話題と平明な話し言葉によって語られる。</p>	<p>風呂敷 NHK 美の壺制作班</p> <p>布地を彩る図柄、絵柄に込められた願い。そして思わずハッとさせられる巧みな包み技の数々。暮らしにひそむ洗練の美風呂敷の魅力を紹介する。</p>